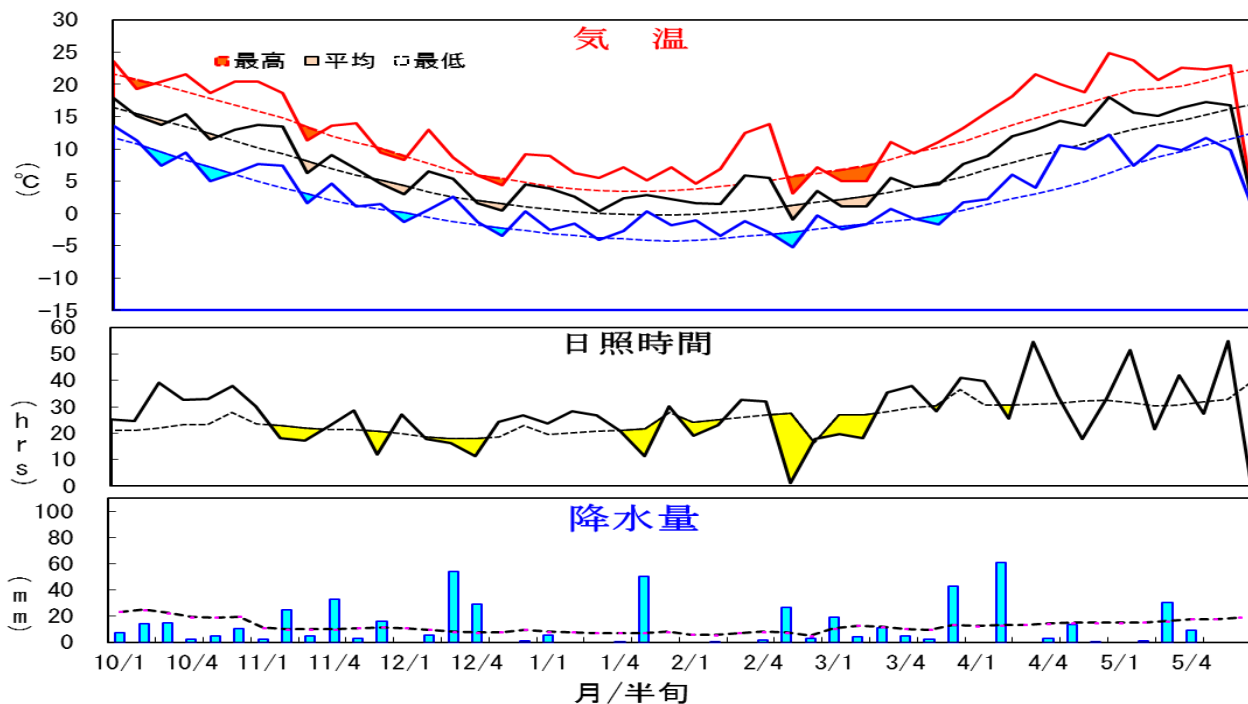


麦作情報 第7号(臨時情報)

令和6年5月28日：JA全農みやぎ

～ 麦類の生育が早まり 一部で赤かび病の発生を確認！ ～
 ～ 適期収穫 適正な乾燥調製の徹底を！！ ～

1 これまでの気象経過



2 東北地方の1か月予報【5月25日～6月24日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・気温は、東北太平洋側で高い若しくは平年並みの確率 40%，低い確率 20%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 40%，少ない確率 20%。
- ・日照時間は、東北太平洋側で多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 05/25～06/24	30 40 30
		1週目 05/25～05/31	40 40 20
		2週目 06/01～06/07	40 40 20
		3～4週目 06/08～06/21	20 30 50
	東北太平洋側	向こう1か月 05/25～06/24	20 40 40
		1週目 05/25～05/31	20 40 40
		2週目 06/01～06/07	40 40 20
		3～4週目 06/08～06/21	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 05/25～06/24	20 40 40
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 05/25～06/24	30 40 30
	東北太平洋側	向こう1か月 05/25～06/24	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況 及び 赤かび病の発生現況

(1) 宮城県古川農業試験場内 作況試験の出穂・開花状況（県病虫害防除所HPより）

- ・出穂期・開花期は、どの品種も平年より10日程度早かった。成熟期も早まると見込まれる。

	品種・区分	出穂期		開花期		成熟期	
		本年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ	4/15	4/25	4/22	5/2	—	6/6
	ミノリムギ	4/19	4/29	4/25	5/5	—	6/9
小麦	シラネコムギ	4/26	5/5	5/5	5/14	—	6/22
	夏黄金	4/26	5/6	5/5	5/14	—	6/23

注1)播種日は、10月19日。

注2)平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

- ・定点調査ほでは、大麦・小麦ともに平年より10日以上早く赤かび病の初発が確認された。
- ・宮城県病虫害防除所の5月中旬の巡回調査では、発生地点率及び発病穂率は、ともに平年より高かった。

	品種・区分	初発日	
		本年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ	5/2	5/19
	ミノリムギ	5/8	5/23
小麦	シラネコムギ	5/17	6/1
	夏黄金	5/17	5/31

注1)定点調査ほは、古川農業試験場に設置。

注2)無防除ほ場における赤かび病の確認日。

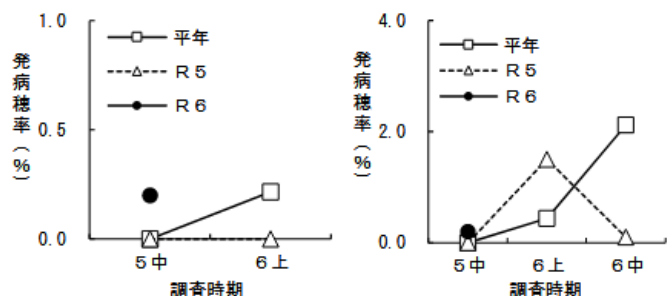


図1 麦類赤かび病の発病穂率の推移
※左図:大麦、右図:小麦
(病虫害防除所)

4 今後の技術対策

(1) 収穫期の判定と収穫作業

- ・小麦「夏黄金」の薬剤防除は、3回が基本である。3回目は、2回目の7～10日後に行う。他の小麦品種についても、赤かび病の発生が目立つ場合は**3回目の防除を検討する**。
- ・作況試験より出穂の早かった**県南部や県中部等の大麦では、すでに5月下旬（21～31日頃）には成熟期に達するほ場もあると見込まれる**。
- ・成熟期の穀粒水分はかなり幅があるが、概ね32～45%である。また、成熟期に達するまでの登熟日数は大麦で出穂後約40日～45日、小麦では約45日～50日である。
- ・登熟期間に降雨や湿度が高い日が多いと赤かび病の進展が助長されるため、刈り遅れの無いように適期に収穫する。
- ・ほ場を見回り、発病が確認されたほ場は、収穫時に刈り分けする。

(2) 乾燥調製等

- ・子実の過湿状態での放置は赤かび病が増殖する原因になるので、収穫後は速やかに乾燥する。
- ・比重選別や粒厚選別が赤かび粒の除去に有効で、併用することで、より効果的に除去できる。
- ・被害残渣（麦わらやこぼれ麦等）は早めに耕起し、土中にすき込むか、ほ場外へ持ち出し、次の伝染源密度を低下させる。